

学校法人 埼玉福祉学園 埼玉福祉・保育専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【令和元年6月27日実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		現状の取組状況	課題	今後の改善方策	委員評価	
		優れている:3 適切:2 改善が必要:1					優れている:3 適切:2 改善が必要:1	学校関係者評価委員の御意見
1 教育理念・目的・育人材像	1-1-1 理念・目的・育人材像は、定められているか	3		教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を文書として明記している。 学園の理念は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学科のイノベーションを図っている。	特になし		3.0	学校の内容的に、また保護者の経済的な理由などにより海外研修の参加者も少ないなどで、建学の理念である国際教育が出来にくい環境にあるかと思えます。それとは別に、海外からの学生の受け入れを毎年されている事が伺えるので、外国学生を中心に企画した異文化イベント企画するなどして異文化に触れる、国際教育のひとつとしてみてはどうか？ 姉妹校のベルエポックとコラボして、海外の食事パーティーなども良いのでは？ 教育理念、目的等が明確になっている。 理念を掲げ、明確な教育方針の下に人材育成が行なわれている。
	1-1-2 育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3		教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。 東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会等と連携している。	特になし	特になし		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3		LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	学科ごとの特色を優先して、学校全体の教育システムの実践は弱まってきている。	学科会議、教務会議での討議が必要。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3		事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし	特になし		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		事業計画を5か年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。 浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOMミーティングなどがある。	特になし	特になし	3.0	目標やその計画、実行とチェックなど、その計画書が中期期間で策定されており、目標を実現させるための姿勢が伺えられる。 また、システムなどを積極艇に取り入れて、業務の効率化を図っている様子も伺えた。 運営方針、計画、会議運営、人事制度、意思決定システム等、適切に行われ、運営の組織化が図られている。 組織を自ら点検し健全な学校運営を推進している。 組織としてきちんと統制が取れている。 明確に定められていると思います。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3		チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし	特になし		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3		理事会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし	特になし		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3		組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし	特になし		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3		学園本部による人材採用、給料規定が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。	特になし	特になし		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3		意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし	特になし		
	2-7-1 情報システム化に取り組む、業務の効率化を図っているか	3		AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また、近年では業務システムに移行しながら、利便性を高めている。 ipadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。 5月をデータプライバシー月と指定して、各PCのデータの適正化、不必要なデータ削除を実施している。 個人情報の取扱いについては日本プライバシー協会の研修を全教職員が受講し、修了すると共に定期的な更新講習を行っている。	ipad入力ミスは減少している。新任講師、入力が不得意な講師向けの対策が必要である	講師へのipad使用の勉強会、個別指導		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づいて実施している。	特になし	特になし
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。 資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している。 国家試験対策センターでデータの分析、対策研修を実施している。	特になし	特になし
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。 講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。 シラバス、コマシラバスも全ての授業で導入している。 学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かす。 目標達成人材をデプロマポリシーで明示している。 年度初めに学科ごとにシラバスを冊子で配付。また、毎回の授業でコマシラバスを配付している。	実習特に業界(施設)での実習の評価基準、評価のあり方については再度明確化する必要がある。 カリキュラムの決定プロセスをより明確にして、問題、課題のさらなる明確化と計画的な改善活動の促進	教務部長を中心に各学科で検討を進める。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、実習指導者懇談会、OBOG就職相談会等、業界と連携しての行事、実習巡回を通じて業界や卒業生の意見を積極的に取り入れている	特になし	特になし
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系だてた教育を実践している。	特になし	特になし
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	前期・後期それぞれ1回学生による授業アンケートを実施している。	年1回講師面談にて授業アンケートの内容を講師へのフィードバックはしているが、時期や方法、その後の効果測定が課題	オープン授業等、通常授業で効果測定を実施する。
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。 定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。 進級卒業判定会議にて成績評価についての確認を実施している。	特になし	特になし
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、卒業研究や学習成果発表等の内容についてはレジメを冊子にまとめている。	特になし	特になし
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。 WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし	特になし
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料で行っている。	特になし	特になし
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写真、実務経歴書も確認している。 教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。 人材確保においては業界団体のホームページに掲載するなど連携を図っている。	教員の資格・実務経験等についてはシラバスに記載なし。	次年度より記載していく。
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	2	常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。 また、講師向け研修会を実施している。 学園グループの教育研究・研修期間(JESC)にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。	授業改善の活動の取組が不足している。	成功事例の集約と水平展開。
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	2	教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。 役割一覧にて教育の責任は明確になっている。 FD研修の開催。	非常勤講師との連携についてはまだ課題があり協力体制が築けているとは言えない。	講師とのコミュニケーション方法のシステム化、研修会、勉強会の検討

カリキュラムや授業内容など、学生を重んじる内容が随所に見られ、良い環境で学びが出来るのではないかと想像される。それに対して、学校スタッフの負担も想像され、双方のバランスを鑑みながら、より良い教育活動に期待します。  
カリキュラム編成、シラバス、教育指導要領等、教育活動が明確に明示されている。  
資格取得指導やキャリア教育にも力を入れていることも理解できる。  
学力、意欲、適性などの違う多様な学生が入学して来ているので、個々の学生の知力、技術力、意欲を向上させる指導方法や指導体制の確立が必要である。  
教育機関の根幹を成す部分であるが、改善すべき点を正しく認識し取り組む姿勢は評価出来る。今後の成果に期待したい。非常勤講師との連携をスムーズに行うのは解決しなければいけない課題が多いと思いますが情報共有等のシステム作りに取り組んでいただきたいと思います。

3.0

4 学 修 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は職員のPUBで随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。  OBOG就職相談会、模擬面接会等、時期に合わせた就職イベントと各科の就職対策を学生のモチベーションに合わせて実施することで、効果を高めたい。  模擬面接会を開催し、分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行っている。	特になし	特になし	3.0	卒業後の就職斡旋等の活動がどの程度卒業生に浸透しているのかが重要であると思います。現在行っている同窓会等を通じて、卒業生の情報を掴んでいき、卒業教育にも繋げていって頂ければと思います。資格取得、就職率等が高く、指導の成果が上がっている。卒業生との関係性は卒業生側に起因する要因が大きいと思われる。学校側の努力を評価したい。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。  国家試験対策研修会に参加し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等の見直しを図っている。	特になし	特になし		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業1年の離職調査を継続的に行っており、卒業生情報の集約に務めている。	卒業生の情報は元担任などの個人知が多く、情報共有やそれら活躍を学校案内等に出し切れていない。	業務システムの活用		
5 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	2	キャリアセンターと卒業学年担任とは定期的に会議を行い情報共有している。また、業務システム(AS400)及びPUB内でも活動状況を共有している。説明会の実施も業界と連携し行っている。また就職活動マニュアルを作成しており学生指導している。	学科の指導とキャリアセンターの情報の一元化に課題がある。  就職試験の合格率が低下し始めた。	情報共有のシステムと打合せを再検討	一般的な見解として、若い方は手取りとお休みの所を重要視している傾向が伺える。その為、退職金や保険などの福利厚生部分は軽視されがちと感じる。就職は人生のターニングポイントであることから、キャリアセンターなどでその重要性も指導していった方が良いと思います。 メンタルヘルスを抱える方はこれからも増え、保護者との不協和もそれに比例して増えてくるのではないかと感じます。特に若い方だと、治療レベルにあるが医療機関とまだ繋がっていない学生もいると思われる、その繋ぎの大変さが容易に想像されます。学校スタッフだけでは対応しきれないものもあると思いますので、法人としての対策もお願したいと思えます。 学生支援体制は確立されている。学生支援は、学校側の問題だけでなく、学生の家庭状況等もある為、難しいと思いますが、働きかけなどを通じて、課題が改善されれば良いと思います。 ますます困難になる学生指導(経済問題、精神疾患、家庭問題…)相談、留学生対応、授業料減免や給付型奨学金等の対応体制づくりを進める必要がある。 自らの意思で入学した18歳以上の学生に対し、学校の保護責任はどこまで問われるのだろうか。保護者が負うべき責任もあろう。学校として出来る事は全てやるという姿勢は素晴らしい。学生への愛情が強く感じられる。	
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	退学数は開講以来数字で集約、分析している。また学生相談室を設置し連携している。  年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。  合理的配慮の実施や研修を実施して一人ひとりの課題に対応している。	1学年以外での退学者が想定以上にいた。  クラス内の人間関係による問題の解決が不足。	問題発生後に早期対応と継続支援するための担当者を明確に設定する。  状況を業務システムに記録し、関係者で確認。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。またJTSC(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。	精神疾患の相談件数が重度化しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。	精神保健福祉の専任や非常勤講師、医療機関と連携を組み、対応策を検討していく。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。担任など複数人で留学生支援チームを結成し週1回の情報交換の場を作り、学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。  日本語学校から講師を招聘し特別授業を開講。	本部の国際センター、グループ校で留学生受け入れ実績の多い学校へのヒアリング等		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。  家庭での支援が充実するよう保護者との面談を強化している。	生活保護や児童養護出身者など、家庭での支援が望めない学生、経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。			
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。相談室では精神的な相談を受け付けている。	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。担任からの受診促進。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし	特になし		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	SCWクワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年10回程度行っており、また学生スタッフ活動も地域活動を行い貢献している	特になし	特になし		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに保護者との個別面談などを適宜実施している。保護者との連携に必要なCC科では保護者会を年4回実施している。その他の学科は全体説明としての保護者会よりも個別面談を重視している。また、成績通知は年2回発送している。	協力が得られない家庭への対応。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	同窓生主催の同窓会を開催。キャリアアップに合わせた分科会や相談会を実施。会報も作成。	卒業生のキャリア段階に合わせた卒業教育としての同窓会の開催。			
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	埼玉県老人福祉協議会と連携して「高齢者福祉研究大会」を実施。また「卒業研究発表会」や「介護福祉教育学会」など業界連携をしている。	特になし	特になし			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人入学者は毎年3割程度おり、学校案内や説明会で対応している。図書室には司書を配置し自習環境も整えている。	特になし	特になし			

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備を含め関連会社が行っており計画的に改修も行っている。 卒業生対象に図書室の開放と貸し出しを行っている。 滋慶スペースによる施設・設備等の保守、入れ替え等の10年計画を立案。その計画に基づいた予算を事業計画に盛り込み実行。	特になし	特になし	3.0	3の教育活動と同じ教育環境の整備を進め、学生支援を着実に進めていることが分かる。 有事に際し学生の生命、身体、財産を守る意味でも防災対策は重要課題であろう。備蓄食糧等の保管場所については諸事情もあろうが、検討を進めて頂きたい。実習等については関係団体と連携して学生、学校、団体にとって良い形を考えられたらと思います。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	実習については、学科ごとに実習要綱を作成し、また実習指導者には事前に学校で研修を実施している。また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。学校行事は学園祭や地域行事、運動会など学生主体で運営を行っている。	特になし	特になし		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	2	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようになっている。	非常時の食事や防災グッズについて保管場所の関係上、必要最低限の準備となっている。	さらに、保管場所含め校舎使用について検討していく		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。非常時持ち出し用の名簿も職員室内に置いてある。	特になし	特になし		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉、保育職の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。(介護は3Kの仕事のような認識)	高校訪問を中心に福祉・保育分野の正確な情報提供を実施。 また、教育委員会や校長会をも巻き込んだ福祉・保育分野の仕事説明会を関連団体や県の所管と連携し実現をめざしたい。	3.0	高校等の進路指導方法に場所によって福祉業界のイメージに誤解をされているケースがある。3Kの福祉に行くなら看護を薦めるなど。今後の少子化問題は更に進んでいき学生自体の数が少なくなってくると思いますので、中学や高校の進路指導担当者への積極的なアプローチと、イメージ改善活動も地道に行っていく必要があると思います。 高校への情報提供、高校訪問、説明会等は工夫して実施されている。 福祉施設等の連携や推薦による入学、業界や卒業生を活用した学生募集、学生の活躍や成果を前面に出した募集、留学生や社会人入学の体制づくりが必要である。 熱意を持って取り組む姿勢が見て取れる。特に問題ない。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。 卒業生の活躍を記載した刊行物を定期的に発行し、就職分野や進路先の理解、教育を中心とする学校の理解が得られるように工夫をしている。	特になし	特になし		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	募集要項に選考基準や入試方法は記載されており、入試ごとに判定会議を行って公平な審査が行われている。	特になし	特になし		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	数値データは毎週行われる運営会議でチェックしながら分析、対策を打っている。財務を担う関連会社とも適宜打ち合わせを行い実学生数と財務の数字をチェックしている。	特になし	特になし		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし	特になし		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし	特になし		
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	2	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	定員充足はしていない。	廃科、定員変更、新学科の設立など、イノベーションを実施。	3.0	事業計画と同様に中期計画が立てられたり、予算・決算なども活用されての経営がなされており、財務の安定化に努めていることが伺える。 財務面の対応は適切である。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし	特になし		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している	特になし	特になし		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。 学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし	特になし		
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし	特になし		
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし	特になし			

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。 学園本部にはセクシャルハラスメントの相談窓口がある。 学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし	特になし	3.0	法令遵守が厳しくなってきた為、関係法令等を遵守して適正に運営をお願いします。 法令遵守、教育情報の公開等は行われている。 学内全体の情報リテラシー向上や学生情報の取扱い改善は、常に注意して行なう必要がある。 法令遵守の仕組みが構築され、正しく運用されている。特に問題ない。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、全職員に対して個人情報保護の研修を実施している。 学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし	特になし		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし	特になし		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし	特になし		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。 教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし	特になし		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし	特になし		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ上で学校情報の公開、さらにツイッターやブログで教育活動を公開している。	特になし	特になし		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	埼玉県老人福祉施設協会と協同で高齢者福祉研究大会を実施している。  委託訓練生を積極的に受け入れている。(H29年度9名、H30年度19名入学)  精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。  通信制高等学校のクラーク高校、KTCおおぞら高等学院とは、年間を通じて福祉授業を本校で開講している。  ケアマネの講座など実施している。  地域清掃、パトロールに職員、学生で積極的に参加している。	特になし	特になし	3.0	地域との連携や自治会活動の参加が見られ、地域や埼玉県と密着した運営をされていると感じる。施設や地方公共団体では産官学連携が求められていますので、今後はその中の学の役割も期待したい。 様々な活動が行なわれている。学生の学習成果や卒業生の活躍の様子を積極的に発信して、学校の名を地域に知らしめて欲しい。 福祉を学ぶ学校としてボランティア活動は奨励して頂きたい。奉仕の精神を育み信頼される人間としての基盤を造る良い機会であると考え。ボランティアについては地元の関係団体等と連携し自然な形で行えると良いと思います。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	ウエストフロリダ大学(UWF)と日米福祉学会を実施している。また、UWFからは日本での交流会も実施している。また国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。	留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。	学園の国際センターとの連携、留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	ボランティア専用の掲示板を設け、学生の参加を積極的に促している。	学生のボランティア活動の実績や実態把握までできていない。その情報の共有もできていない。	ボランティア報告書を提出してもらいファイリング、データ化する。		